

研究会・部会・ 委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
食品安全研究会					
食品微生物研究部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品産業会が抱える食品微生物関連の共通課題を、部会員が協同で(企業の枠を超えて)研究し解決を目指す。</li> <li>・食品関連企業の微生物担当者が業務上の悩みや課題を相談・共有し相互解決できる場として機能する。</li> <li>・当部会の研究成果を含む食品微生物に関する安全性等の情報について、広く周知活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回以上の部会および勉強会の開催</li> <li>・分科会による研究活動の推進と発信</li> <li>・部会員同士の情報交換を加速する場の設計と運営</li> <li>・新規研究プロジェクトの立案および他機関との積極的な連携の実施</li> </ul>	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月14日(月)13:00～17:00、江東区森下文化センターとZoomとのハイブリッドにて、勉強会および部会を開催。部会員43名が参加。主要な内容は以下の通り。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>- 横河電機株式会社 田口朋之様から同社の微生物迅速検査システムのご紹介</li> <li>- 「技術導入」をテーマとした小グループディスカッション</li> <li>- 分科会活動報告</li> <li>- コミュニティ活動キックオフ</li> </ul> </li> <li>・「イルシー」No. 163に掲載する公益社団法人大分県薬剤師会 検査センター微生物顧問 緒方喜久代先生の寄稿「微生物試験における精度管理」の執筆サポート。</li> <li>・10テーマのコミュニティ活動(部会員同士の情報交換)の計画と始動。</li> </ul> <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p>		

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を 5/27 に開催した。次回は 8/20 開催予定。</li> <li>(2) チルド勉強会 <ul style="list-style-type: none"> <li>a. ボツリヌス菌接種試験活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動なし(追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中)</li> </ul> </li> <li>b. 耐熱性試験法検証活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動なし</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>(3) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗なし</li> </ul> </li> </ul>		
食品リスク研究部会	食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	食品リスク研究に関する勉強会を 3 回以上開催し、情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回勉強会は「国内における食品添加物の摂取量推定」とのタイトルで国立医薬品食品衛生研究所の多田敦子先生にご講演いただく。</li> <li>・第 2 回勉強会は食品の安全性評価の視点から山陽小野田市立東京理科大学の小島肇先生にご講演いただく。</li> <li>・第 3 回テーマに関しては担当者間で Personalized Health Record をキーワードとして議論中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回勉強会:9 月 17 日(水)</li> <li>・第 2 回勉強会:10 月 24 日(金)</li> </ul> <p>いずれも森下文化センターにて開催</p>	
香料研究部会	食品香料の性質と安全性等に関し偏向の無い科学的な調査研	—	—	—	—

	究を行う。食品香料に関する正しい科学的共通理解を産・官・学に普及させる。				
食品領域の動物実験代替推進プロジェクト (AAT プロジェクト)					
全体進捗	<p>&lt;活動目的&gt;</p> <p>1) 動物に依存しない、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。</p> <p>2) 動物福祉の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究 WG テーマ推進による評価技術基盤並びに評価戦略構築とケースレポートの作成。</li> <li>情報収集・発信 (国際ワークショップ内容のレポートによる発信、シンポジウムの開催)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの活動について、今後の方向性、活動戦略、スケジュール等に関する議論を目的に、コアメンバー会議を開催 (2025 年 4 月～6 月)。また、プロジェクト全体会議を 6 月 18 日(水)に開催。</li> <li>外部発表: 日本動物実験代替法学会第 38 回学術大会 (11/1～3、横浜)において ILSI Japan がオーガナイザーとして開催するシンポジウムの企画検討を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト全体会議を 9 月に開催予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)、一般財団法人化学物質評価研究機構 (CERI)、その他アカデミア等の専門家</li> <li>関連学会 (日本動物実験代替法学会等)</li> <li>ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部</li> </ul>
体内暴露予測ワーキンググループ (WG)	食品成分の体内曝露を、動物を用いずに予測する手法の開発推進と現場実装	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 昭和薬科大学山崎研にて構築された in silico 動態予測モデルの実装</li> <li>② 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握</li> <li>③ ケースレポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① in silico 体内動態予測モデルのガイダンスを作成し、AAT メンバーへ共有した。</li> <li>② in silico 体内動態予測モデルに関する論文の内容の分担を決め、作成を開始した。</li> <li>③ 進捗なし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 必要に応じ、各社からの問い合わせやガイダンス修正対応を行う。</li> <li>② in silico 体内動態予測モデルに関する論文の作成継続と、次期取り組みに向けた AAT メンバー向けアンケート作成。</li> <li>③ ケースレポートWGの検討</li> </ul>	

		ト対象化合物の体内曝露予測		内容に応じて適時曝露予測を実施。	
データベース WG	食品成分の既存毒性情報(文献等)を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。	有害性評価支援システム統合プラットフォーム (HESS) を用いた食品成分毒性試験データベース及び使用ガイダンスを含む毒性予測手法の AAT 参画メンバーへの公開	進捗なし。		
ケースレポート WG	NAMs (New Approach Methodologies) を用いた食品成分の安全性評価戦略を具体化させ、体内曝露予測 WG とデータベース WG の活動と協力し、in vitro assay 系を加えたリスク評価戦略を作成し、ケースレポートとして発信する。	Case Study のテーマを「肝障害」とし、ベンチマークドーズ解析には欧州食品安全機関 (EFSA) のベイズモデルを使用する。In vitro では肝細胞死の BMDL 値 (Benchmark Dose Lower Confidence Limit)、in vivo では肝障害の用量における推定曝露量	第 38 回動物実験代替法学会 (2025 年 11 月) での ILSI Japan 企画シンポジウムに向け、以下の検討を実施中。 <ul style="list-style-type: none"> <li>エピガロカテキンガレートの肝障害を対象とし、安全性評価スキームを検証するため、ヒトおよびラットの in vitro ならびに in vivo 試験の文献調査を実施し、in silico PBPK モデル (生理学的薬物速度論モデル) による曝露量推定を実施。</li> <li>発表要旨 (和文・英文) の作成。</li> <li>ヒト in vitro 追加試験実施ため、委託先の選定と委受託契約の実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 37 回動物実験代替法学会での発表内容を、Case Report としてまとめる</li> <li>第 38 回動物実験代替法学会に向け、追加試験の実施と評価および発表準備を進める</li> </ul>	

		を PoD (Point of Departure) とし、評価スキームの検証を行う。	施。		
企画運営 WG	動物実験代替法における各国の技術・規制動向に関する情報を発信することにより、食品業界における代替法の開発や取り組みの推進を促す。	評価技術に関する情報を収集しプロジェクト内へ共有すると共に、プロジェクトの活動内容を学会やワークショップ等を通じて発信する。	食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、AAT プロジェクトが主催し専門家の先生による講演会を企画している。 2025年6月24日に第5回講演会を実施。京都大・医生物学研究所の中台枝里子先生より「ヘルスケア分野における線虫の有用性と課題」のご講演をいただいた。完全 Web 開催となり約 40 名が参加。線虫を用いた寿命延長効果の評価やプロバイオティクスの摂取による長寿作用などについて紹介をいただいた。	① 第 6 回講演会の開催計画立案、講師選定および日程の調整 (2025 年 9 月～10 月を目途に開催を予定) ② 動物実験代替法学会 (11 月開催) の企画シンポジウムの運営フォロー ③ 今後の講演会実施の方向性に向けて、プロジェクトメンバーへのアンケート実施を計画	
<b>研究会・部会・委員会・分科会</b>	<b>活動ビジョン・ゴール</b>	<b>年度目標</b>	<b>進捗・課題</b>	<b>予定・行動計画</b>	<b>関連団体等</b>
バイオテクノロジー研究会	バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等	1. 植物バイオテクノロジー報告書 (旧 ERA プロジェクト調査報告) (年 4 回) 2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵	・2024年12月16日開催「精密発酵品に関するワークショップ」の開催報告がなされた。2025年5月発行の ILSI Japan 機関誌「イルシー」162号に掲載された。別刷りを関係省庁、関係者に配布開始。 ・2025年6月23日 第2回バイオテクノロジー研究会開催。	・植物バイオテクノロジー報告書 No. 71 号発行準備 ・2025年度高度精製品・遺伝子組換え微生物ワークショップの企画準備 ・第 17 回 ISBR2025 専門家派遣プロジェクト準備 ・データトランスポートビリティ	バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査

	<p>の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>	<p>生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ</p> <p>3. 第 17 回 ISBR ( International Society for Biosafety Research)2025 への安全性評価の専門家の派遣</p> <p>4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表</p>	<p>1. 2025 年 7 月 29 日に開催する予定の「隔離圃場試験のデータトランスポートビリティに関する現状と展望」について、準備状況が共有された。</p> <p>2. 第 17 回 ISBR2025 へ専門家 5 名を派遣し、発表もしくはオブザーバー参加いただくことが報告された。また、会期中にパラレルセッション「Data Transportability of Confined Field Testing: Current Status of Discussions and Future Prospects」を主催し、日本の専門家から日本の現状と今後の展望についてご発表いただくとともに、アルゼンチン、パラグアイ、アフリカに続きブラジルの専門家からも現状と今後の展望について紹介する予定であることが説明された。</p> <p>3. 2025 年度「高度精製品・遺伝子組換え微生物ワークショップ」開催について 2024 年度に改訂・策定された遺伝子組換え微生物を利用して生産された添加物に関する食品健康影響評価指針・技術的文書の解説を当局からしていただくことで、科学的見地に基づいた議論を実施する方向で計画されている</p>	<p>ィー (DT) に関するワークショップ開催準備</p> <p>・2025 年度度高度精製品・遺伝子組換え微生物ワークショップ開催</p>	<p>研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>
--	--	--	--	---	---

			ことが共有された。		
栄養健康研究会					
栄養研究部会	国内外における栄養と健康に関わる諸問題についての情報を収集・発信する。また部会員間の交流を推進する。	部会で取り上げたテーマについて、講師を招いた勉強会を企画、開催し、ILSI Japan 会員企業からも参加者を募ることで、課題を共有する。 勉強会開催後はイルシー誌に内容を掲載することで、情報を発信する。 ●上記の部会活動を通して、部会員間およびアカデミアとの人的交流を高め、研究ネットワークの拡充を図る。	・2025 年度第 3 回定例会議を 5 月 15 日 (木) に森下文化センターにて対面開催し、前回 3 月 13 日の勉強会の振り返り、今後のテーマ、活動についての意見交換を行った。	・7 月 8 日 (火) に森下文化センターにて 2025 年度第 4 回定例会議および SDGs に関する研修会 (講師: ILSI Japan 中西由季子先生) を開催予定。 ・9 月 9 日 (火) に森下文化センターにて 2025 年度第 5 回定例会議および 2025 年度第 2 回勉強会「日本人の食事摂取基準 2025 年版～基本的な考え方と改定のポイント、今後の課題について」(講師: 東邦大学教授朝倉敬子先生) を開催予定。	
GR プロジェクト	食品・食事の血糖応答性の簡易評価法 (GR 法) の確立と普及	GR 法の確立・発表論文発表 他施設研究を基礎とした測定系の安定化および簡易化を目標とする	低 GI 食品を含めた代表的な食品の GR 値の測定ならびに測定の安定化を図るための詳細条件の検討を進めた。 また、これまでの内容をまとめて、第 23 回国際栄養学会議で発表するアブストラクトを提出。オーラル発表 1	国際栄養学会議発表準備 論文再投稿準備 GR 法詳細条件の検討 GI 値との比較検討	昭和女子大学 生活機構 研究科生活科学研究専攻 食健康科学部 日本食品分析センター

			題、ポスター発表1題が採択された。 研究打合せを4/2, 5/8, 6/8に行った。		
茶類研究部会・ 茶情報分科会	茶樹に係わりその成分の世界的な多様さ、飲料その他商品に係わり各種茶成分の機能性、研究・開発・商品化等につき会員相互間の情報交換を深めると共に、外部からも情報を得る。	—	—	—	—
CHP (Center for Health Promotion)					
Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	超高齢化が進む国内において、働きざかりの人々や高齢者の健康維持を支援する、運動と栄養の複合プログラムの開発と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルシーエイジングのためのプログラムの開発・普及</li> <li>・介護予防教室の開催(自治体、社会福祉協議会、企業)</li> <li>・地域リーダーの育成(大学、社会福祉協議会、シルバー人材センター)</li> <li>・論文等、科学的成果の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第3期「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」サブ課題 D 「障がい者・高齢者の生きがい向上策」の中の研究テーマ「高齢者と遠隔家族をつなぐデジタル同居サービスの開発」に協力参加機関として参画。デジタル同居サービス MVP (Minimum Viable Product) 検証において、主に栄養分野の介入を担当。</li> <li>・東京都墨田区委託事業 介護予防教室「すみだテイクテン教室」2025年度春教室開催。 すみだ生涯学習センター 5/1,</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度墨田区委託事業「すみだテイクテン」春教室、秋教室</li> <li>・「デジタル同居サービス」MVP 検証</li> <li>・論文投稿</li> </ul>	

			5/15, 5/22, 5/29, 6/5, 6/12, 6/19, 6/26。 ・豊田市「ずっと元気プロジェクト」イベントで TAKE10!®プログラムの紹介。4/18, 5/16		
Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	途上国、新興国における官民連携の栄養改善の取組み「栄養改善事業推進プラットフォーム」(NJPPP)のプロジェクトとして、工場など職場の栄養改善プロジェクトを東南アジア各国で推進。	フィリピン:「フィリピンの栄養強化米プロジェクト2022(調査研究)」	➤ 本年度プロジェクト実施せず		
		ベトナム:「ベトナムにおける野菜の摂取行動に影響を与える要因調査」 ビジネスモデル構築を実施。	➤ 本年度プロジェクト実施せず		
		ミャンマー:「完全オンラインによるブロックチェーン技術を応用した職場における栄養教育」 栄養教育推進に焦点を当てたビジネスモデル構築に向けた展開を計画。	➤ 本年度プロジェクト実施せず		
		インドネシア:「インドネシアにおける健康的な食事の普及に関する調査2022」	➤ 本年度プロジェクト実施せず		

		ビジネスモデル構築を実施。			
CHP 全体	日本の産・官・学界に蓄積された栄養学、医学、公衆衛生、衛生環境等の分野における科学的知識および技術を、国内および世界的に共通な課題の解決に活用し、SDGs に基づいた社会貢献を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SUN Business Network Japan (仮称：SBNJ) 事務局機能誘致に向けた活動継続。</li> <li>・ SDGs 貢献プラットフォームの形成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NJPPP 会費の返金案内に応じて、返金希望の手続きを実施 (6/19)。</li> </ul>		
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
国際協力委員会	アジアの ILSI 各支部間の交流による食品法規動向及びリスク評価等の情報収集・共有化と ILSI Japan 関係者への成果報告	9月11~12日に中国で開催予定の Asia Life Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議(アジア地域 ILSI 支部との情報交換会)への参加、情報交換	<p>&lt;進捗&gt;</p> <p>5/8 国際協力委員会(ICC)会議開催：新規メンバーの紹介と、前回提示された課題について検討を継続した。</p> <p>1. ICC としての活動の継続性 →検討継続</p> <p>2. ALSIN 会議</p> <p>① 引き続きハイブリッドでの開催を求める</p> <p>② 出席希望や演題についてアンケートを実施</p> <p>3. 新規提案案件</p> <p>① 東南アジアプロジェクトを ICC の分科会とする件 (事務局提案)</p> <p>1) プロジェクトとしては発足。</p>	<p>&lt;予定&gt;</p> <p>7/7 国際協力委員会(ICC)会議開催 (確定)</p> <p>* できれば 8 月後半に発表資料の確認のため会議を開催予定。</p> <p>&lt;行動計画&gt;</p> <p>1. ICC 会議にて、ALSIN 会議への出席者・発表テーマ・「イールシー」誌投稿分担などを決定</p> <p>2. ALSIN 会議に向けた講演資料の準備</p> <p>3. 新規案件への対応継続</p> <p>4. 活動持続性の検討の継続</p>	アジア ILSI 各支部

			<p>2) プロジェクト側の意見を求める。</p> <p>② ILSI 本体からの情報収集について事務局に協力（理事会提案）</p> <p>1) 現状、特に必要なしとのこと。</p> <p>2) 状況に応じ、他支部の活動内容について ICC として調べることも考慮。</p> <p>③ アルゴリンクス社との共催セミナー（アルゴリンクス社・事務局提案）：検討継続</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>1. ICC 会議の定期開催</p> <p>2. ICC 活動の活性化</p>		
食品機能性研究会・AI 栄養・機能性研究部会					
AI ディアトロフィ研究部門分科会	数千分子種よりなる食品摂取によるヒトの代謝状態を最新のコンピュータ技術と計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測する AI システムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>代謝モデルの領域拡大</li> <li>機能伝達経路のイジングモデル</li> <li>AI 教育</li> </ul>	<p>2024 年度「東北大学 NICHe ILSI Japan AI ディアトロフィ研究部門」報告書が 4 月 28 日付で発行された。</p> <p>6 月 27 日に第 2 期参画企業 5 社で 2025 年度以降の活動について意見交換会を実施した。</p>	<p>➤ 東北大学 NICHe と第 2 期参画企業による今後の活動計画に関する打合せを実施予定。</p>	
情報委員会・編集部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査・研究活動とその成果の発表</li> <li>科学情報の普及</li> <li>国内外の関連機関</li> </ul>	<p>1. 活動報告配信（年 4 回）</p> <p>2. 機関誌「イルシー」の発行（年</p>	<p>1. 活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2025 年 1～3 月分配信（4/16）。</li> </ul> <p>2. 「イルシー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>162 号：発行、発行、ホームページ</li> </ul>	<p>1. 部会活動報告の配信（1 月、4 月、7 月、10 月）</p> <p>2. 機関誌「イルシー」の発行（2 月、5 月、8 月、11 月）</p>	

	との交流・連携	4回) 3. 種々出版物発刊 のコーディネー ト 4. ホームページ改 定	掲載、お知らせメール配信 (5/16) ・163号：編集中 (2025年8月発行 予定)		
--	---------	--	--	--	--

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>I. 第2回理事会開催 (5月14日 (水) 15:00～)</p> <p>1. 決議事項</p> <p>1) 新任理事の承認 味の素(株)スミリガ・ミロスラブ理事の退任があり後任として同社の小島淳一郎様が選出され、異議なく承認された。</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 新事務局体制 山口氏から杉本氏への事務局長の交代と各職員の業務内容について説明をした。</p> <p>2) ILSI Japan ホームページ改定 作業を依頼しているワラモコ(株)高橋氏から具体的なホームページのイメージや会員の会社ロゴなどの画面を見せて説明し、一部理事から「お知らせ」をトップに表示した方がよいなどご意見をいただいた。</p> <p>3) 会費関連 食品業界三団体の会費の金額基準につき調査した結果を説明した。結論としては他の団体の会費基準を採用するのではなく、新たなテーマ策定、新部会活動の立ち上げ、既存部会活動の活発化など、ILSI Japan の価値を上げて新会員の開拓、獲得を目指すこととする。</p> <p>4) 東南アジア栄養課題研究会 進め方の提案について栄養研究部会や国際協力委員会とコンタクトを取り進めることとする。資金は別途参加会員より徴収する。</p> <p>5) ILSI 本部情報 (下記II参照) 2025年本部予算資料の説明に関して、北米地域 (含：本部) の財政弱体化や本部積立金の使い方の情報交流を密にすること、米国・カナダ地域部門の新規プロジェクトをヒントにして日本も公的資金を呼び込む活動を検討すること、などの意見が出た。</p> <p>II. 本部グローバル理事会 (4/14)、事務局長会議 (3/11) 概要</p>
-----	--

	<p>1. 2025 グローバル予算&amp;予算に関する主要メッセージ 【予算措置における主要機能について説明】</p> <p>2. ILSI Federation (本部) 2022~2027 戦略計画 【概略説明】</p> <p>【解決案提示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 支部間の連携、協力の強化</li> <li>➤ サイエンス活動の透明性を高め、ILSI グローバルにどのように支援できるかを考える</li> <li>➤ キャパシティ・ビルディングへの投資を進め、各支部がよりサイエンス活動に集中できる体制とする。</li> </ul> <p>以上の情報共有があった。</p>
事務局	<p>I. 新研究部会（東南アジア栄養課題研究会）立ち上げに向けた活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提案者（取出理事）との打ち合わせ</li> <li>2. 理事会への提案</li> <li>3. 参画企業との Web 会議実施（4 月末～5 月初旬、6 月 10 日）</li> <li>4. キックオフ会議：ベトナムスタディツアー（7 月末）でのセミナー開催、Web 配信対応。</li> </ol>